

2005 年度 小委員会活動成果報告

(2006 年 1 月 28 日作成)

小委員会名	シェル・空間構造物の応答制御・減衰機構小委員会	主 査 名：新宮清志 就任年月：2002 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 シェル・空間構造運営委員会	委員長名：和田 章 主 査 名：大森博司
設 置 期 間	2002 年 4 月 ~ 2006 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>シェル・空間構造物の減衰機構・減衰性能を明らかにし、さらに積極的に免震・制振等により応答制御を行い、構造物の地震被害を低減することが重要と考えられる。そこで、本小委員会はシェル・空間構造物の応答制御および減衰の調査研究を行う事を目的としている。具体的には、これらの研究成果をセミナーやシンポジウムで公開すると共に、成果物を出版し会員に還元する予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2002 年度：減衰・免震・制振に関する基礎資料の収集 ・ 2003 年度：減衰・免震・制振に関する調査研究 ・ 2004 年度：減衰・免震・制振に関する調査研究、成果出版物の計画 ・ 2005 年度：出版物の刊行、セミナー等の実施 	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：なし</p> <p>新宮清志(日本大学) 立道郁生(前田建設工業) 谷口与史也(大阪市立大学) 青木義男(日本大学) 入江寿弘(日本大学) 大木洋司(東京工業大学) 瀧 諭(清水建設) 竹内徹(東京工業大学) 中澤祥二(豊橋技術科学大学) 西田明美(日本原子力開発機構) 福住忠裕(神戸大学) 細澤治(大成建設) 松野浩一(東洋大学) 向山洋一(バコーレーション) 山田耕司(豊田工業高等専門学校)</p> <p>ただし、 :主査、 :幹事</p> <p style="text-align: right;">以上 15 名</p>	
設置 WG (WG 名:目的)	なし	
2005 年度予算	90,000 円	ホームページ公開の有無：なし 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	1. 2005 年度日本建築学会大会(近畿)構造部門(シェル・空間構造) パネルディスカッション「体育館・公共ホールの地震被害と耐震改修」 (耐震性能小委員会と共同開催) 参加者数 218 名 (資料名)「体育館・公共ホールの地震被害と耐震改修」
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. 当初の予定になかったが、前述の大会PDを開催した。</p> <p>2. 本委員会委員が中心となり、東京工業大学でワークショップ「シェル・空間構造物の免震・制振技術に関する研究」を2回開催(11月、2月)した。</p> <p>3. 本年度は、小委員会の設置最終年度であるので、ここで総括をしておく。運営委員会の要請により、4年間にセミナーを1回(新「シェル・空間構造」セミナー、2002年)、大会PDを2回(2003年、2005年)開催した。また、本小委員会委員の多くが執筆に当たった書籍「空間構造の動的挙動と耐震設計」(他の小委員会企画)が本年3月に刊行予定である。</p> <p>これらの活動に尽力したことにもよるが、本小委員会企画の書籍「シェル・空間構造物の減衰と応答制御(仮)」刊行が大幅に遅れている。このため、執筆・刊行のための作業は新小委員会(応答制御と減衰小委員会)に受け継ぐ事になった。</p> <p>したがって、総合評価：80点～85点程度と考えられる。</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<p>1. 委員会開催日を決めるに当たり、全員の都合が付く日を設定するのは不可能であったが、数名の委員の委員会出席率が悪かった。これをいかに解決するか、かなり難問である。</p>